

第57号

発行者
コイケモクザイグループ
小池木材（株）
小池商事（株）
ラミネート・ラボ（株）
トヤマハウジング（協）

テーマ

木を愛し
木に親しみ
木をもって
社会に貢献しよう

- 誠意
- 情熱
- 工夫



（ゼッチ・ゼロエネルギー）

ZEH住宅時代到来に向けて

トランプ米大統領が、気候変動への国際的な取組みを決めた2015年のパリ協定からの離脱を宣言し、様々な国や機関、マスコミから地球温暖化に対する姿勢に対して批判を受けています。科学的な地球温暖化に対する研究も色々な分野で議論されていますが、科学的な見地は別としても、最近の気象状況はかなり異常と肌で感じる機会が多くなっています。

例えば、この富山の地においても冬に降る雪の量が激減し、最近では根雪という言葉が聞かなくなり、雨の降り方や風の吹き方の激しさは昔とは違うと感ぜられ、地球温暖化対策は日本人・地球人として喫緊の課題になっております。

そうした中、住宅業界においては「省エネとCO₂削減」が大きな潮流となっています。以前は商品の性能の良し悪し、例えばサッシならば、1枚ガラスかペアガラスかでサッシの性能の良し悪しを判断していたのですが、今は全ての商品の省エネ性能を知る時代になりました。

5地域、山間部が4地域に分類されます、それぞれの地域別に3項目（①断熱性能 ②省エネ性能 ③創エネ性能）からなる基準値を設定し、住宅と基準値を比較して住宅の良し悪しを評価する事になります。

さらにこの様に住宅を数値化し、家全体の断熱性能を高めることで、冬は外の冷気が、夏は外の暖気なるべく室温に影響を与えないような高断熱性能住宅を作り、更に断熱性能の良い家で省エネ機器を使う事で効率良く電気やガスなどのエネルギーを使うように改善し、最後に太陽光などの創エネ設備を設ける事で、住宅で使うエネルギーの地産地消をする住宅を標準的な住宅にしようと国は考えています。このような住宅をゼロエネルギー住宅、ローマ字読みでZEH住宅（ゼッチ住宅）と言います。現在、住宅のゼロエネルギー化について、経済産業省は補助金を使い国民への振興に努めています。一方、業界にはZEHビルダー制度（任意）を昨年から導入して、5年間の導入計画（棟数）を求めて官民をあげてZEH住宅化が進んでいます。

但し、ZEH住宅は大変難しい



技術力を求められます。平成28年の北陸3県のZEHビルダー登録は224社ですが、ZEH住宅を建設した住宅会社は65社（全体の30%）に過ぎません。富山県内においても、積極的な企業はZEHのモデルハウスを上手に利用し受注棟数を大きく増やしています。が、企業間の温度差がまだまだ大きいように思います。

そういう状況の中、コイケモクザイグループでは、ZEHや補助金に関してのセミナーの開催、ZEH仕様にする為の検討会や商品提案（断熱材、サッシ、太陽光、設備機器）、ZEHに必要な外皮計算・一次エネルギー計算等のサポートを通じて、お施主様や各工務店様の意識向上や将来に向けての準備を支援促進しております。

これからの住宅は、地球に優しい

い資産価値のあるZEH住宅が当たり前という時代がもうそこまで来ているようです。

住宅業界の省エネが加速する中、全産業のエネルギー消費量を見てみると、全体の三分の一を占めているのが非住宅建築物によるものであり、残念ながら著しく増加しているとの事です。この現状を打開する為に、平成29年4月1日より建築物省エネ法に基づき、非住宅建築物（300㎡以上）においても計算書等の届出が必要となりました。このような住宅以外の建築物の省エネ対策にも対応できるように万全の体制を整えております。

今後もグループとして、各セクションの特性を生かし積極的に省エネ・創エネに取り組んでまいります。

